

マインツ。岡崎慎司が去った後、武藤嘉紀が加入して、日本人には馴染みのある名となった。ドイツらしい、しっとりとした町。そこがサッカー以上に世界的に名を馳せるのは、活版印刷を発明したグ

窓のそとは、森

⑪なくなる仕事、生まれる仕事

慶應義塾大学大学院
メディアデザイン研究科教授
中村 伊知哉



ーテンベルクの故郷としてだ。グーテンベルク博物館には彼が印刷したという旧約・新約聖書が残っている。

グーテンベルクが聖書を印刷したのは一四五五年のこととされる。

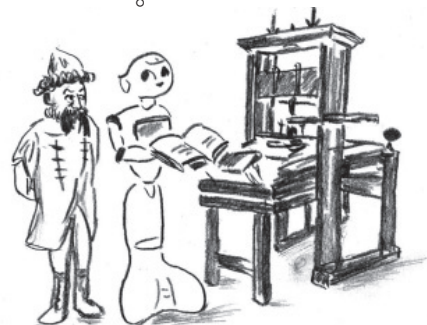
印刷術は世界を根底から変えた。人々が書物を読み、沈黙考するようになった。宗教革命が生まれた。産業革命が始まった。民主革命が勃発した。中世が近代へと塗り替わった。

世の中がすっかり変わるまで、三世紀を要した。だがどうだろう。グーテンベルクは、三百年後、自分の産んだ技術が社会をそこまで変えると空想していただろうか？

手紙を含む紙の文化が大衆化して五百六十年になる。今、IT革命やデジタル革命と呼ばれるコミュニケーションの大改革が進んでいる。仕事のしかたを変え、産業構造を変える。表現や文化を変える。学校も病院もオンラインになり、暮らしも変わる。

でもどうだろう。私たちは、この革命の結果、三世紀後に社会がどう変わっているか、空想できているだろうか？

ネットやスマホの次に来るのは人工知能だと言われる。機械が賢くなって、便利になるという。既にいろんなサービスが登場している。ネットで自分の好みの商品を推薦してくれる。分からないことをケータイに聞くと、調べて教え



てくれる。自動翻訳もサービスが始まった。ロボットが人の言葉を理解して、遊んでくれる。自

動走行する自動車の実験が行われている。金融市場では、金融工学を駆使した人工知能が取引全体の七割を担っているという。

すると、いよいよ機械が人の仕事を奪う。ホワイトカラーの仕事は機械に肩代わりされ、人間が勝るのは音楽、ソフトウェア、スポーツといったクリエイティブな仕事と、肉体労働とに集約されるという予測もある。オックスフォード大学は、今後二十年以内に米国の職業の半分が失われる可能性を指摘している。

郵便はどうだろう。なくなるだろうか。続くだろうか。わからない。だが、いずれにしろ、三世紀後に今と同じ仕事のままということはあるまい。馬で運び、鉄道で

運び、走って運んでいた郵便は今、クルマやバイクや自転車でも運んでいるように、これまでも変わってきた。

産業革命時、機械が人の仕事を奪うからと、機械を打ち壊す運動が起きた。でも機械化は進んだ。馬車は自動車に置き換わった。馬車を扱う仕事は消えた。しかし、新しい仕事は増えた。自動車産業が起き、道路や信号を作る産業が成長し、それを使うたくさんの仕事、郵便も運輸業も観光業も発展した。

大事なのは、何が失われるかわりも、何が生まれてくるか。それを想像して、実際に創造していくこれからのどんな仕事が生まれていくだろう。しばしそれを考えてみたい。

プロフィール 一九八四年郵政省入省。橋本行革で省庁再編に携わったのを最後に退官し渡米。一九九八年MITメディアラボ客員教授。二〇〇二年スタンフォード日本センター研究所長。二〇〇六年より慶應義塾大学教授。社団法人融合研究所所長などを兼務。著書に『コンテンツと国家戦略（角川THINK選書）』など多数。